

# 伝統芸能の継承

## ～ 420年の奉納神事 湯本南条踊り～

2023年10月1日

1 / 3

長門市東深川の赤崎神社周辺で開催される「赤崎まつり」の中で、420年にわたり奉納されてきた「湯本南条踊(ゆもとなんじょうおどり)」が、今年も奉納の日(9月10日)を迎えました。深川湯本の大寧寺(たいねいじ)、東深川赤崎神社の楽棧敷(がくさじき)、東深川の飯山(いひやま)八幡宮、湯本恩湯(おんとう)広場の順で奉納する長丁場になります。

私は、コロナ渦でイベントが中止になったこともあり、4年ぶりの参加になりました。踊り手も、父の時代は45歳定年であったように聞いていますが、現在の45歳はバリバリの若手です。…また、踊り手は当地区で生まれ育ったという古い仕来りもあったようですが…今は、そのような風習もなく、この地に移住されてきた方も地域の伝統行事に参加されています。

スケジュールは、門前区・湯本区・三ノ瀬区の「当家渡し」が8月31日に、9月1日には「所作割り」

…〈4日間踊りの練習〉…9月6日には「花作り」を終え、9月10日の本番を迎えます。

この踊りには諸説あって、吉川軍と南条軍の和睦成立後、吉川藩士が人質として収容していた南条藩士から南条地方で往古より盆会に踊り続けられていたのを吉川藩に伝えたという説や、吉川軍が羽衣石城で壮士数十名を踊子に扮し踊らせながら入城して南条軍の攻略に成功したこの誉れを伝えるため「南条攻略の踊」とし、略して「南条踊」と呼んだという逸話があります。腰に大刀、小刀の2本の刀を差し込み踊っている様からも、そのような説もあるんだと思いますし、踊りながら相手を油断させ攻め入るなんてところはなんとも～微妙な～感じでもあります。

吉川藩(岩国藩)から深川湯本に伝わったのは1674年。秋を告げる踊りとして「赤崎まつり」で毎年奉納され、昭和43年(1968年)には山口県の無形民俗文化財に指定されました。1970年大阪万博で盛大に披露されたことは、子供ながらに記憶に残っています。

当日早朝、温泉街に響き渡るほら貝の音が踊りの始まりを知らせます。

大寧寺前には、約50人の踊り手が集結。午後1時、おごそかな雰囲気の中大寧寺境内への道行が始まります。



# 伝統芸能の継承

## ～ 420年の奉納神事 湯本南条踊り～

2023 年 10 月 1 日

2 / 3

・・・この大寧寺は、応永 17(1410)年大内家の支族鷲頭弘忠公が、石屋真梁禅師を開山として迎え開創した曹洞宗屈指の名刹です。石屋禅師は、18 才で中国に渡り修行を積むこと 20 年。活達磨と称賛され、帰国後、当時、南北朝にわかれて葛藤していた皇室を、後小松天皇の勅命によって合一する働きを 元中 9 年(1392 年)に成し遂げ、皇室に絶大な信頼を得ました。その学徳兼備の名声と遺勲を礎として、6 世紀になんなんとする寺史を有し、かつては全国に六百数十ヶ寺に及ぶ末寺をもつ僧録寺として栄え、その壮麗美観は「西の高野」と称えられ、毛利家の香華院、又萩藩毛利家の上級家臣もこぞって境内に墓碑を建立しました。春は桜、秋は紅葉の名所としても知られています。

・・・〈大寧寺HPより〉・・・



大寧寺本堂



直径約 3m の輪を十字の木枠に取り付け、色鮮やかに彩られた「吹貫」が側踊りに合わせて風を切る様は、踊りの力強さとしなやかさを失わない伝統の舞を一層引き立たせます。



# 伝統芸能の継承

## ～ 420年の奉納神事 湯本南条踊り～

2023 年 10 月 1 日

3 / 3

大寧寺の奉納を終えると、一行は東深川の「赤崎まつり」の会場へ。

・・・赤崎神社は、長門市東深川の赤崎山(20m)の中腹の谷筋にあります。谷筋の馬蹄形の地形を利用して、神殿正面の歌舞伎舞台小屋、すり鉢状の床の踊り場、踊り場を囲む、斜面の階段状の観客席のある半円形の野外劇場で、この観客席を桝形に区切って使用されたものが楽棧敷です。楽棧敷は、1596 年(慶長元年)この地方に牛馬の病気が大流行し、多くの牛馬が死んだ際、赤崎神社の守護神への平癒祈願に当たって、民俗芸能の七楽(楽踊 5、南条踊、三番叟)が奉納されることになり、その観客棧敷として作られたもので、民俗学、演劇、歴史、建築学等の学問的価値も高いとされています。

・・・〈県文化財より〉・・・



大寧寺・赤崎棧敷ではフルバージョンで約40分、飯山八幡宮・湯本恩湯広場は、唄を省くので半分くらいの踊りになります。以前は涼しげな秋風を感じながらの踊りでしたが、今年は9月とは言えこの猛暑の中、大寧寺・赤崎棧敷が終わったところには、汗がべっとり付いた袖口で腕も上がらないほどの満身創痍です。

最後は、再び湯本に帰ってきての踊りとなります。2020 年 3 月にリニューアルオープンした湯本温泉街のメイン広場となる恩湯広場は、新設された高台の駐車場から竹林の階段を降り音信川に面した場所にあります。リニューアル以前は、その高台にある住吉神社での奉納でしたが、昨年从这个場所での奉納になりました。



こうして地域の宝とも言える「湯本南条踊」の伝統は、1 年 1 年大事に受け継がれていきます。